

氏名	湯 本 英 一 朗
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3735 号
学位授与の日付	平成 14 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Serum interferon-gamma-inducing factor (IL-18) and IL-10 levels in patients with acute hepatitis and fulminant hepatic failure (急性肝炎、劇症肝炎における血清 interferon-gamma-inducing factor(IL-18)およびIL-10濃度)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 小出 典男 教授 西堀 正洋

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

急性肝不全患者の生命予後に影響を及ぼす Th1 および Th2 cytokine 反応の役割を明らかとするため、劇症肝炎 20 例、急性肝炎 18 例、慢性ウイルス肝炎 30 例、肝硬変 20 例、ICU 症例 13 例および健常者 21 例の血清中の Interleukin(IL)-18, interferon-gamma(IFN- γ), IL-10 および IL-4 濃度を測定し検討した。IL-18 については肝生検組織内発現を免疫組織化学染色にて検討した。劇症肝炎患者の血清 IL-18 濃度は他の肝疾患、ICU 患者、健常者より有意に上昇していた。また、劇症肝炎患者の血清 IFN- γ 濃度は慢性ウイルス肝炎、肝硬変患者、健常者より有意に上昇していた。血清 IL-18 および IFN- γ 濃度との間に正の相関を認めたが、劇症肝炎患者の予後との関連は認めなかった。免疫組織化学染色では門脈域の同部位に CD68 陽性のマクロファージと IL-18 陽性細胞を認めた。血清 IL-10 濃度の上昇は劇症肝炎症例に限られ、生存例において有意に高値であり、血清総ビリルビン濃度および我が国の Death rate (p)と各々有意な負の相関を認めた。血清 IL-4 濃度と予後との相関は認められなかった。

【結論】IL-18 および IFN- γ は人の急性肝不全の病態に関与すると考えられた。また IL-10 は劇症肝炎患者の予後規定因子のひとつであると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、急性肝炎および劇症肝炎における血清 IL-18 と IL-10 の濃度を検討したものである。その結果、急性肝不全において血清 IL-18 濃度は上昇し、劇症肝炎予後良好例においては Th2 サイトカインである IL-10 の上昇を認めた。これらは、急性肝不全における免疫病態についての重要な知見であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。